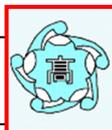


学力進展



<1 テーマ>

同僚性の高い教員集団の強みを活かし、生徒が自己肯定感を高め、自律的に学びに向かう姿勢を育む。

<2 取組方法>

義務教育段階の学習内容の定着が不十分で、適切な人間関係を構築することが苦手なため、自己肯定感が乏しく、将来に対する具体的なビジョンを見いだせない生徒が本校では多く在籍する。こうした生徒に対し、自己肯定感・有用感を高め、基礎学力を向上する取組を通し、第一志望の進路実現を達成するよう支援する。

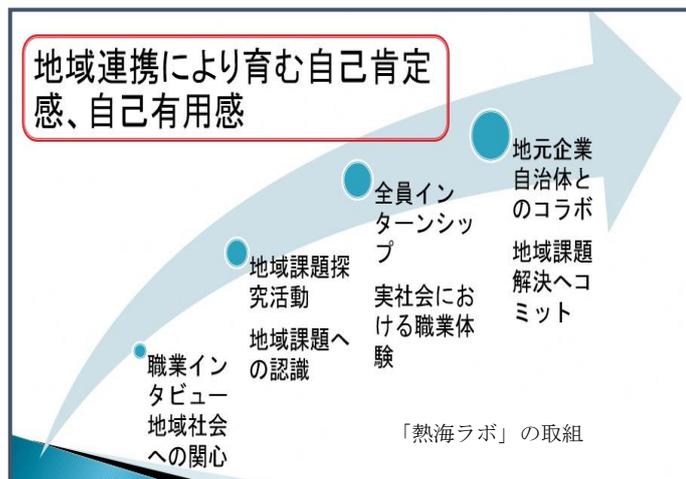
<3 成果指標と実績>

令和元年度末 実績

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組（2年・1年）	33%・22.5%	35%・30%	25.1%・20.6% (C)
①平日学習時間（2年・1年）	0.37h・0.53h	0.5h・0.7h	0.31h・0.34h (C)
①休日学習時間（2年・1年）	0.31h・0.53h	0.6h・0.8h	0.37h・0.32h (B)
③授業で力がついた実感 （2年・1年）	3.3%・8.8%	10%・15%	8%・2.9% (B)
①授業の理解度（2年・1年）	6.6%・8.8%	15%・25%	11.4%・11.8% (B)
②外部連携等	125人	211人	200人 (A)
②学力向上補習等	33人	40人	45人 (A)
③第一志望（2年・1年）	53人(79%)	70人(80%)	64人(78%) (B)
1日当たり欠席	12.6人	9人	12.1人 (B)
2,3年部活加入率	78%	80%	78% (B)
学習アプリ取組	100p	150p	125p (B)
自己肯定感（2年）	10.4%	20%	20% (A)
（1年）	7.1%	20%	17% (A)
業者テスト（2年・1年）	D2+・D2+	D1-・D1-	D2-・D2- (B)

<4 特徴的な取組>

I 総合的な探究の時間「熱高ラボ」、「熱海ラボ」等を通じたキャリア教育（生き方、在り方）の推進（地域連携を通じて育む自己肯定感と自己有用感）



1年次より継続的な地域学習を行うことを通して、熱海市の抱える様々な課題を解決するプログラムを平成29年度より、「総合的な学習（探究）の時間」を活用し実施しています。その狙いは、自分の住む地域に対し関心を持ち、自ら考え行動し、仲間と共に解決していく力を養い、地域に根差した活動ができる人材を育成するところにあります。

1年次は地域課題をテーマにし、調査し、解決策を仲間とともに探究する「熱高ラボ」、2年次は地元企業・自治体について調査し、自分たちなりの解決策を探究する「熱海ラボ」を行っています。

平成31年度より、この取組が評価され「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の「地域魅力型」の指定校に選ばれさらに充実した活動に取り組んでいます。

（注）数多くの取組事例の中の数例を下記に示しています。

①「熱高ラボ」



・総合的な探究の時間「熱高ラボ」
熱海を活性化するための方策を熱海ガスの方々と協議する様子

②「起業家育成プロジェクト」



・起業家育成プロジェクト
企業経営者と地域産業の振興策を協議する様子

③「AHAプロジェクト」（新規事業）



・熱海高校生エージェントプロジェクト
高校生がパッケージツアーの販売及び添乗を行い、総合旅行プロデュースに取り組みます。

中高の学びの連動



熱海高校（基礎学力向上のための授業改善）事例集

＜事例1＞平成28-30年度までの3年間、文部科学省事業での取組を活かし「中高の学びの連動」に重点を置き、高校の学習内容の理解が深まるよう、国英数の3教科で「指導計画」を作成しました。

＜事例2＞コアスクール予算で整備した機器を利用し、ICTを活用した授業に積極的に取り組んでいます。

＜事例3＞キャリア教育の一環として地元企業の方を招き、働くことの意義など、お茶を飲みながら意見を交換する「キャリアカフェ」を新たに立ち上げました。

＜事例4＞「夢の架け橋プロジェクト」を取り入れ学習・進路支援に取り組んでいます。

（取組事例1）「指導計画(Teaching Compass)」の活用



基礎学力向上のために国数英で単元ごとに授業計画をまとめた「指導計画(Teaching Compass)」を作成し、中高の学びの連動を意識した授業改善を行っています。

（取組事例2）ICT機器を活用した授業



（取組事例3）キャリアカフェ



（令和元年度 新規事業）

（取組事例4）夢の懸け橋プロジェクト

2年生全員を対象に、教員一人が4人～5人の生徒を担当し、各教員の指導計画の元、毎週月曜日の30分間を活用し、進路支援に取り組んでいます。
「ゲームから学ぶ確率論講座」
「農業講座」「世界遺産検定取得講座」などを開設しています。

（令和元年度 事業改善）

（生徒の授業理解も深まっています。）



（ICT校内研修を実施しています。）

<5 成果と今後の方向性>

本校では、「生き方・在り方」を模索する「キャリア教育」と「基礎学力向上のための授業改善」の二つの大きな柱によりコアスクール事業を進めています。「キャリア教育」の分野では、「熱高ラボ」、「熱海ラボ」、「AHAプロジェクト」、「レモンの木プロジェクト」に代表される地域連携により、「地域との協働による活動を学校の活動として明確化」し、「地域における活動を通じた探究的な学びの実現」を図っており、大きな成果を挙げています。（平成31年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域連携型）に指定）

「基礎学力向上のための授業改善」では「中高の学びの連動」をキーワードに主に国語、数学、英語の教科を中心に他教科においても授業改善に取り組んでいます。「学び直し（キャリアアップ※1）」を通じて義務教育段階の内容が分かるようになったという生徒も数多く見られることから一定の成果を挙げていると思われます。

さらに本年度は地元企業の方々を学校に招き、「働くことの意義、やりがい」等について社員と生徒のカジュアルな意見交換を通し、キャリア意識を高めるために新たに「キャリアカフェ」（新規事業）を立ち上げました。こうした取組により、生徒の自己肯定感・有用感（ポジティブコミュニケーションの活用※2）を高め、社会に出てから自分の力で人生をたくましく切り拓いていく人材づくりに取り組んでいきます。

※1 本校独自の学校設定教科 義務教育段階の学び直しの教材（国・数・英・一般教養）を週2単位実施している。

※2 生徒の良い所を積極的に見つけ、教員が生徒に対し積極的に声掛けをすることにより自己肯定感を高めることを目的とした取組

<p><1 テーマ></p> <p>総合学科の強みを活かしながら、探究学習とキャリア教育で生徒のやる気を引き出す</p>
<p><2 取組方法></p> <p>(1)生徒の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系列別研修（希望者）の開催 ・高度な資格取得の奨励 ・大学生による学習支援(チューター) ・外部から講師を招聘し、授業実践 <p>(2)教員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員を招聘した授業改善研修 ・特色ある授業の取り組みを行っている学校へ視察訪問 ・外部から講師を招聘し、授業実践 <p>(3)高大接続改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの手法研究と開発 <p>(4)成果の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や成果発表会を通じた外部評価

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年	27.4%	35.0%	16.1%
1年	41.5%	46.0%	30.2% (C)
①平日学習時間 2年	0.30h	0.45h	0.42h
1年	0.71h	0.75h	0.85h (B)
①休日学習時間 2年	0.58h	0.70h	0.59h
1年	1.02h	1.10h	0.89h (C)
③授業で力が	2年	8.1%	12.0%
ついた実感	1年	21.0%	24.0%
			19.6% (C)
①授業の理解度 2年	9.1%	16.0%	7.5%
1年	22.5%	26.5%	15.9% (D)
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	97人	95人	265人 (A)
②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数	40人	50人	36人 (C)
③第一志望の進路を実現した生徒数	164人	162人	158人 (B)
	90.6%	90.0%	91.3%
②上位の資格取得にチャレンジする生徒数	44人	54人	40人 (C)
③「主体的・対話的で深い学び」のある授業に取り組んでいる教員数	28/43人	31人	31/41人 (A)
	65.0%		77.5%
③研修の効果を実感する教員の数	25/43人	28人	34/41人 (A)
	58.0%		82.9%

<4 特徴的な取組1>

★キャリア教育の見直し★

今年度から新分掌「キャリア教育推進室」を設置し、3年間を見据えた系統的・計画的なキャリア教育がスタートした。また、探究的な学習にもチャレンジしている。

- 1年：キャリアベーシック「地域社会の理解」「地域学（探究学習）」
- 2年：キャリアチャレンジ「世界観の拡大」「台湾学（探究学習）」
- 3年：キャリアアップ「課題解決力の育成」「未来学（探究学習）」

1年「地域学」＝地域の魅力・課題発見



2年「台湾学」＝異文化理解



<4 特徴的な取組2>

★授業改善★

- 1 実施 6月と11月の2回
- 2 目的 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善
- 3 対象 全教職員
- 4 内容 授業参観及び常葉大学の先生（安藤雅之氏、久米昭洋氏）の指導・助言による授業検討

6月の授業改善研修



★校内「親子教室」実習★

- 1 実施 毎週火曜の2・3限（本校にて）
- 2 目的 1年を通して同じ生徒が同じ親子の世話をする中で、一人の子供の成長を間近で観察する。母親からも子育ての話聞く機会とする。また、保育に関して、施設の方から客観的な評価やアドバイスをもらう。
- 3 対象 保育健康系列の2年
- 4 内容 地域の子育て支援施設が開催する「親子教室」への支援・補助

実習の様子



★第2回トークフォークダンス★

- 1 実施 7月12日（金）「産業社会と人間」
- 2 目的 世代の違う人達との会話を通じて、多様な考え方に触れ、自己表現力や会話力を身に付ける機会とする。
- 3 対象 1年生と近隣の住民
- 4 内容 フォークダンスのように、1分で話す相手を次々と変えて、様々なテーマで語り合う。
- 5 トピックス
今年度、近隣への募集活動を生徒自身が行ったことで、多くの人数を集めることができた。

当日の様子



※1年生202人を超える数の住民が参加

<5 成果と今後の方向性>

昨年度末、先進校視察に行った教員が主体的に集まり、本校における実践的取組について、提言集を学校に提出した。その提言集をはじめ、昨年度の視察が今年度の教育活動に大いに活かしている。特にキャリア教育においては、これを専門に扱う部署の新設を行ったことで、大きく前進した。

今年度の活動を振り返ると、トークフォークダンスや親子教室のような、地域の力を借りた体験的・実践的な学びが生徒の学習意欲や自己肯定感を高めることに有効な手段となっている。これらの活動は、準備に時間が掛かり、教員の負担も大きいですが、その成果の大きさを考えると、本校にとっては今後の鍵となる教育活動である。さらに授業改善の成果が出ることで、成果目標の達成に近づくと考えている。

<p><1 テーマ></p> <p>「読解力の育成」を主とした基礎学力の定着</p>
<p><2 取組方法></p> <p>生徒の学力向上</p> <p>①朝のSHR等を利用した取組</p> <p>②読書活動の充実（朝読書、ブックフェア）</p> <p>③新聞を利用した活動（配架、音読、掲示等）</p> <p>④進路実現のための小論文等の表現力の指導</p> <p>⑤学年別講演会（基礎学力・表現力向上）</p> <p>⑥卒業生等大学生による学習指導・学習支援</p> <p>教員の指導力向上</p> <p>⑦教員の校内研修テーマとして研究</p> <p>⑧アクティブラーナーによる自主研修</p> <p>⑨先進校視察と校外研修会への参加</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	H30実績	H30目標値	H30実績(評価)
①授業への取組 2年	25.0%	30.0%	29.0%
1年	26.0%	30.0%	29.0% (B)
①平日学習時間 2年	0.8h	1.0h	0.5h
1年	0.8h	1.0h	0.8h (C)
①休日学習時間 2年	0.9h	1.3h	0.6h
1年	1.0h	1.3h	1.0h (C)
③授業で力がついた実感 2年	0.0%	10.0%	5.8%
1年	7.0%	10.0%	9.4% (B)
①授業の理解度	6%	10.0%	9.2% (B)
②外部との連携による探究活動	4人	10人	20人 (A)
③補習等への参加生徒数	706人	700人	472人 (C)
④第一志望の進路実現する生徒	141人 79.7%	130人 80.7%	131人 81.4% (A)
予習復習時間	37.04分	40分	28.24分 (C)
新聞講読する生徒数	38人	70人	46人 (C)
文章の理解度向上	66.4%	70.0%	64.4% (B)

<4 特徴的な取組>

生徒の学力向上

- ①朝のSHR等を利用した読解力・基礎力向上の取組
 - ・朝読書
 - ・天声人語の読解演習
 - ・新聞記事の音読発表
 - ・日本語検定の演習
 - ・GTEC対策演習
- ②読書活動の充実
 - ・朝読書の実施
 - ・ブックフェアの開催
- ③新聞を利用した活動
 - ・新聞月間の設定
 - ・全クラスに新聞を配架
 - ・気になった記事をクラス全員の前で音読し、感想を述べ、発表後に教室に掲示する等



SHRでの取組（朝読書等）



ブックフェア



教室で新聞を読む生徒



新聞記事の音読、要約や感想の発表

④進路実現のための小論文等の表現力の指導

AO入試や推薦入試に対応するため、小論文や志望理由書の書き方講座を各学年で実施。

⑤外部講師による学年別講演会（基礎学力・表現力等の向上に向けて）

1年は「勉強の仕方と基礎学力の向上」、2年は「発表・スピーチ等の表現力向上」、3年は「進路別的小論文・面接講座」をテーマとし、外部講師による講演会を実施。

⑥卒業生等大学生による学習指導・学習支援

卒業生による土曜講座を実施。冬期補習も計画中。本校教員とTTで行い、学習支援。



1年生の小論文講座



3年生の面接講座



卒業生による土曜講座

教員の指導力向上

⑦教員の校内研修のテーマとして研究

授業改善委員会の企画による校内研修を4回実施。「アクティブラーニングの研究」に加え、「家庭学習時間の充実と課題の出し方」等の基礎学力の定着に関するテーマで話し合い、対策を検討した。

⑧アクティブラーナーによる自主研修

アクティブラーナーを導入し、教員各自がオンラインで先進的な研修の受講を進めた。

⑨先進校視察と校外研修会への参加

読解力の養成や基礎学力の定着に熱心に取り組んでいる叡明高校（埼玉県）と岐阜県立海津明誠高校を視察した。また、新学習指導要領に関する研修会等に参加して、教員の指導力向上に役立てた。



校内研修会



アクティブラーナーの自主研修



先進校視察での授業見学

<5 成果と今後の方向性>

<成果>

本校では、授業改善委員会の企画による校内研修が定着しており、「読解力の養成・基礎学力の定着」についても活発な意見交換がなされた。これまでのアクティブラーニングの研究も含め、教員の指導力向上が更に進んだ。また、生徒の学力向上についても、新聞を利用した活動の工夫や、外部講師による学年ごとの講演会等を新たに実施し、読解力の養成や基礎学力の定着に少しずつ成果が現れてきた。

<今後の方向性>

教師と生徒が「読解力の養成」の重要性を常に意識し、今後も様々な手法で積極的な取組を進めていく必要がある。取組が一過性のもので終わらないよう粘り強く継続し、評価と改善を進めて、学校全体の学力進展につなげていきたい。



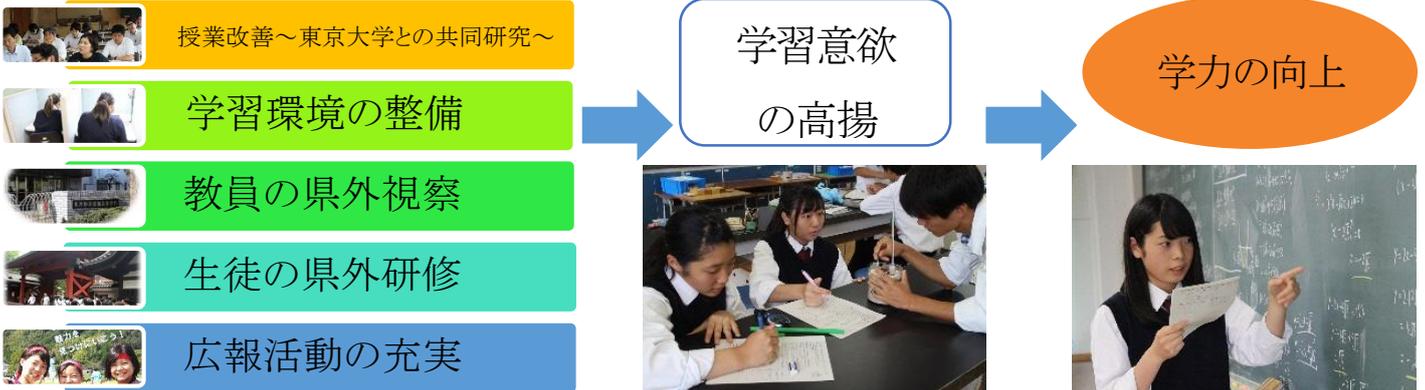
コアスクール（学力進展） 県立静岡西高等学校

テーマ「多様な進路に対応する体制づくり」

～ 生徒の学力向上と教員の授業力向上 ～

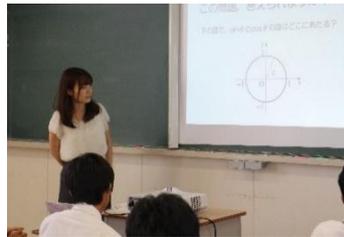
◎静岡西高校コアスクール実施委員会 特徴的な5つの取組

若手職員と分掌課長・事務職員の分掌横断チームが、実効性の高い企画を立案。本年度本校の特徴的な5つの取組を紹介する。



特徴的な取組Ⅰ 授業改善「魅力ある授業デザイン研修～東京大学との共同研究～」

第一の柱は、教員の授業改善である。学習科学と認知心理学等の知見を生かし、生徒の学習意欲を高めつつ教員の授業改善を図ることが有効であると考え、昨年に引き続き東京大学高大接続研究センター植阪友理准教授を招聘し、「魅力ある授業デザイン研修」を企画、実践を行っている。特に授業中の「発問」を工夫し、生徒の思考を促すことを目指し、テストにも同じ「発問」を反映させ学習評価の研究にも力を入れている。さらに今年度からは、本校教諭2人と東京大学大学院教育学研究科の大学院生との共同研究が始まった。一つは言葉で説明することを中心とした授業と宿題、テスト問題についての研究である。「より深く理解するためには、意味を説明できるようになろう」ということを生徒も教員も意識し、学習方法や授業、宿題、テストを工夫していく。もう一つの研究は、「問題を解く際に間違えてしまったら、そこから自分への教訓を引き出して、次に役立てよう」という学習方法を学ぶことである。「なぜ自分が間違えたのか」「この問題のポイントは何か」、普段の授業でも宿題に取り組むときでも、失敗から学び、振り返りを大切にして深い学びを実現しようとしている。



東京大学大学院博士課程 太田絵梨子さん
「ただ問題を解ければよいのではなく、意味を説明できるまで理解することが大切」と21HRの生徒に。



東京大学大学院博士課程 柴里美さん
「問題を解き終わった後に自分への教訓をメモしておこう」と22HRの生徒に。

特徴的な取組Ⅱ 学習環境の整備 Study Hall・いこいの広場完成！

長年使用されことなく眠っていた自習用スペース一式をまるごと職員室近くの教室に移転。分解・移動・組立ての作業は、すべて本校職員と生徒との協働作業で行い、今年5月に完成した。この自習スペースをStudy Hallと名付け、生徒からは歓迎する声が上がっている。



Study Hall について

- 目的：静かに孤独に勉強したい人のため
- 場所：本館2階進路指導室隣（職員室近く）
- 席数：仕切りのある机が24席
- 開室：令和元年5月7日
- その他：冷暖房完備!!

特徴的な取組Ⅲ 教員の県外視察（11月から1月に実施予定）

中堅教員と若手がペアになって、先進的な取組をしている県外の学校へ視察に向う。視察後には、報告書をまとめ研修会を開くなど、校内外に情報を還元する予定。

視察先			キーワード
岩手県立花巻北高等学校	青森県立八戸東高等学校	青森県立八戸西高等学校	総探・表現科・スポーツ科
福井県立若狭高等学校	福井県立鯖江高等学校	福井県立羽水高等学校	カリマネ・地域連携・探究
岡山県立林野高等学校	岡山県立瀬戸高等学校	岡山県立西大寺高等学校	PDCAサイクル・ルーブリック
伊那市立伊奈学園中学校			未来を主体的に生き抜く生徒の育成

特徴的な取組Ⅳ 生徒の県外研修 東京大学見学ツアー（5月実施）・東京企業見学ツアー（12月実施予定）



日帰りバスツアーで、東京大学と青山学院大学の見学を行った。当日は高大接続研究開発センター准教授の植阪友理先生と大学院生2人による認知カウンセリングの講義「心理学を生かした効果的な学び方」を受け、生徒たちが日ごろの勉強で悩んでいることについてお話をいただいた。講義の後は、安田講堂、三四郎池、赤門などを大学院生が案内してくださった。午後は青山学院大学へ行き東京の私立大学の華やかさを体感した。また、12月の冬期休業を利用して、東京企業見学ツアーを計画。若手教員の企画運営で、DeNA、警視庁、小学館、ハーゲンダッツなど3コース6企業への見学を行う。職業観や勤労観を養い、大学進学後の自分を考えることで学習意欲の高揚へとつなげる。

特徴的な取組Ⅴ 広報活動の充実

本校の魅力を発信するためN navi！（静岡西高校魅力発見マガジン）を発行。すべて本校職員による手作りである。一人ひとりの生徒の実像に迫り、充実した高校生活を送っている様子を中学生はもとより地域のみなさまへ伝えている。さらに学校ホームページの改善、運営委員会を中心とした中学校への訪問（情報・意見交換）を行っている。



成果と今後の方向性

本校は、西高Spirit（「自分を信じる心」、「相手を認める心」、「社会の役に立とうとする心」）をもって未来を生き抜くことができる生徒の育成を教育の目的としている。その育成の場の核はやはり授業である。魅力ある授業には、「魅力ある発問」、「考える甲斐のある発問」が欠かせない。教員からの良質な発問は、生徒の思考を促し、深い学びへつなげる。本校の授業は、東京大学植阪准教授による「魅力ある授業デザイン研修」の御指導の成果もあって、ここ2年で大きく変貌した。「活動あって学びなし」の形だけの言語活動ではなく、深い学びを追求した授業が多く展開されており、教員の授業力が確実に向上した手ごたえがある。生徒の、家庭学習時間の増加や進学実績に効果が表れるまでには至っていないのは事実である。また、普通科高校として生徒募集に課題を抱えている本校が、魅力ある学校として地域から（再び）認めていただくまでには時間がもう少しかかるだろう。困難な中であっても、コアスクール事業を今後も強力で推進し、失敗を恐れず時宜をとらえた取組を果敢に挑戦していきたい。

成果指標と実績

成果指標	初期値	平成30年度目標値	平成30年度実績(評価)
①授業への取組 2年・1年	15.8%・18.3%	20%・20%	25%・24% (A)
①平日学習時間 2年・1年	0.5h・0.8h	1.0h・1.0h	0.76h・0.84h (B)
①休日学習時間 2年・1年	0.8h・1.1h	1.5h・1.5h	1.1h・1.2h (B)
③授業で力がついた実感 2年・1年	5.9%・4.3%	10%・10%	5.4%・4.9% (C)
①授業の理解度 2年・1年	8.4%・2.4%	10%・10%	5.0%・3.9% (C)
②外部との連携による探究活動等への参加人数	50人	100人	128人 (A)
②学力向上を目的とした補習等への参加人数	240人	300人	330人 (A)
③第一志望の進路を実現した生徒数	120人	180人	100人 (C)
国公立大学合格者数	4人	8人	0人 (D)
G-MARCH+日東駒専合格者数	31人	30人	6人 (D)
公務員合格者数	11人	12人	6人 (C)
ICT機器を用いた授業実践割合	20%	25%	35% (A)

<1 テーマ>

「実学の奨励」「地域・大学との連携」「授業改善取組」を総合的に活用した生徒の学習意欲と基礎学力向上

<2 取組方法>

- (1) 地域創生活動の企画・運営によるキャリア意識の向上
 - 地域商店街との連携・商店街へのアンテナショップ開設
 - 水窪町町おこし事業への参画
- (2) コンテスト、検定への積極的参加
- (3) 朝学習、週末課題、家庭学習の充実
- (4) 外部人材の活用による学力向上
 - 大学・企業・地域からの講師招聘
 - 地域施設との連携
- (5) 先進校視察による効果的な教育実践の導入
 - 農業先進校視察
 - 基礎学力向上先進校視察
 - 先進的総合学科高校視察
- (6) 積極的なICT活用
- (7) 校内研修の拡充

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年	22%	30%	23%
1年	23%	30%	19% (C)
①平日学習時間 2年	35分	40分	35分
1年	35分	40分	31分 (C)
①休日学習時間 2年	73分	80分	71分
1年	69分	80分	83分 (B)
③授業で力がついた実感 2年	23%	25%	22%
1年	22%	25%	7% (C)
①授業の理解度 2年	23%	30%	22%
1年	22%	30%	11% (C)
②外部と連携した探究的活動への参加生徒数	3年生 全員	3年生 全員	3年生 全員 (A)
②学力向上を目的とした補習への参加生徒数	45人	50人	48人 (B)
③第一志望の進路を実現した生徒数	90% 以上	90% 以上	93% (A)
週5日以上家庭学習する生徒の割合	5%	10%	10% (A)
校内研修又は先進校視察に参加する教員の割合	84%	90%	96% (A)
外部試験の成績下位者（GTZのD評価）の減少	35%	30%	37% (C)

<4 特徴的な取組> 基本構想

生徒を主体とした取組

地域創生活動の企画・運営によるキャリア意識の向上
（白子商店街、水窪町活性化プロジェクト）

コンテスト、検定への積極的参加

朝学習、週末課題、家庭学習の充実、学びの基礎診断の活用

教員による授業改善

外部人材の活用による学力向上

先進校視察による効果的な教育実践の導入

積極的なICT活用

校内研修の拡充

生徒の学習意欲と基礎学力向上

<4 特徴的な取組> 取組の様子



水窪町と共同で開業予定の農家民宿の準備合宿の様子。この活動についての発表は農業クラブ県大会で優勝し、関東大会に出場することになった。



ジャパンマイコンラリー全国大会に出場する本校生徒による市長表敬訪問の様子。(平成30年)



本校3年生考案の「さば泳ぐミルクカレー」は県牛乳乳料理コンクールで最優秀賞に選ばれ、関東大会に出場することになった。



白子商店街の空き店舗を活用した藤枝北高校アンテナショップの様子。(写真は平成30年度のもの。令和元年度は令和2年1月11日開催予定。)

<5 成果と今後の方向性>

日々の地道な学習、課題解決的な実践、最新の知見の導入、コンテスト等へのチャレンジ、職員の授業力の向上等の取組を総合的に組み合わせることで、学習意欲及び学力を向上させようとするのが本校のコアスクール事業である。昨年度については生徒の家庭学習習慣の向上が観察され(目標値達成)、一定の成果を上げることができた。

総合学科である本校は、恵まれた人的資源と多様な教科・科目を擁しており、その資源を利用した実践的な教育活動は生徒の多様な学習の支えとなっている。これらの活動を通じた多面的な学力の育成は新学習指導要領の趣旨にも適っており、今後も継続していきたい。

一方、いわゆる従来型の「テストで測定できる学力」については、思うように成果が出ていない。学年が上がるにつれて普通科目の時間数が少なくなること、大学への進学希望者が1割程度しかいないことなどから、学びの基礎診断、模擬試験等で確認できる学力については普通科高校に水を開けられている状況がある。

農業科グループによる水窪町町おこし活動、工業科グループによるマイコンラリー全国大会出場、商業科グループによる地元商店街活性化活動、家庭科グループによる各種コンテストでの上位賞受賞などコアスクール事業の下での活動は活発に行われており、これらの活動によって身に付いているであろう見えない学力を評価する評価方法の開発と、各種実践的活動を支える普通科目の学力の向上が今後の課題といえる。

< 1 テーマ > 学び続けるエンジニアの育成を目指して
～基礎学力の育成を基盤とした総合力を高める取組～

< 2 取組方法 >

取組の柱

1 生徒の学力向上

全国工業高等学校長協会が認定するジュニアマイスター制度を活用した資格取得に力を入れ、工業高校での学びを深めるとともに、エンジニアとして必要な知識・技能・技術を身に付ける。また、地域連携で生徒は小中学校の出前授業等で講師をつとめ、工業の専門分野について教えることで、工業高校の魅力を発信するとともに自ら専門分野の知識を深める。

2 教員の指導力向上

高度技術の習得と先進技術の研究を行う。具体的には、全国工業高校長協会主催の講習会への派遣やタブレット活用の校内研修会、Find!アクティブラーナーを活用した動画視聴による自己研修等によって教員の授業力向上を目指している。また、ICT教育推進やICTを活用した授業のため、ICT機器や教室環境の整備を進める。

< 3 成果指標と実績 >

成果指標	初期値	H30			H31
		目標値	実績	(評価)	目標値
①授業への取組	2年 30% 1年 31%	35%	10.1% 27.4%	(C)	30%
①平日学習時間	2年 0.82 1年 0.93	0.85 0.95	0.97 1.34	(A)	1.00
①休日学習時間	2年 1.05 1年 1.35	1.10 1.40	1.03 1.48	(B)	1.15
③授業で力がついた実感	2年 9% 1年 10%	15%	8% 8%	(C)	10%
①授業の理解度	2年 2.1 1年 2.2	2.0 2.1	2.2 2.1	(B)	2.0
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	90人	100人	213人	(A)	210人
②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数	130人	140人	246人	(A)	200人
③第一志望の進路を実現した生徒数	180人	190人	225人	(A)	200人
③ジュニアマイスター「ゴールド・シルバー」になった生徒の数	5人	7人	7人	(A)	18人
③競技大会で入賞した競技数	4競技	4競技	11競技	(A)	13競技
②就職希望者でインターシップに参加した生徒の割合 2年	70%	80%	60%	(B)	70%
③基礎力診断テストの教科面	2年 2.8 1年 3.1	2.9 3.2	3.7 3.8	(A)	3.8

3 高校大学接続改革

高校大学接続改革の研究として、大学等を訪問し、大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜について情報収集し、生徒の進路実現に向け指導体制を整える。

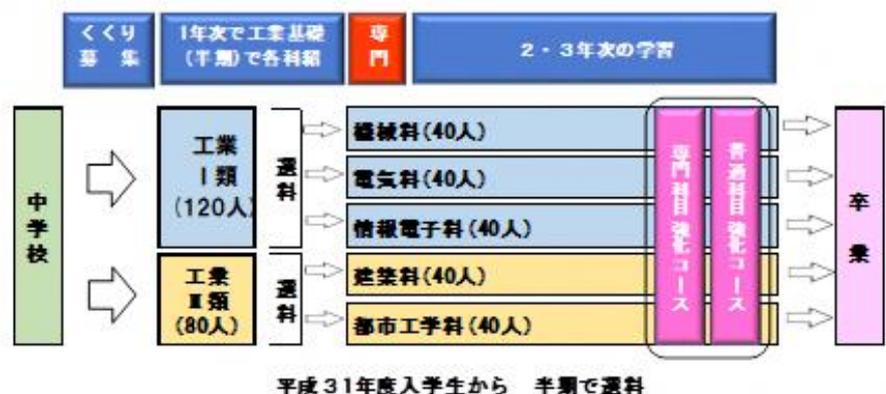
< 4 特徴的な取組 >

1 生徒の学力向上

(1) 選科の時期

選科・選コース小委員会では、選科の方法を抜本的に検討した。くくり募集を継続しつつ選科期間を1年から半年に短縮することで、課題であった専門性の深化と普通科目の強化が図れることとなった。

選科に関わる工業技術基礎2単位を1年次の4月から10月に集中履修し、情報技術基礎も、この期間に集中履修することで、後半に工業専門科目4単位の履修を可能とした。



(2) 1P学習

家庭で机に向かう習慣をつけることを狙いとしてはじめての1日1P学習も、平成30年度は全クラスでの実施ができた。1年次は同じ漢字や単語を写すだけだった生徒も、学年を追うごとに、1日1Pではなく2ページ、3ページと学習する量や質が向上する生徒も見られた。

(3) 資格取得

工業の専門性を深化させ、エンジニアが実社会で必要とする資格取得を推進している。全国工業校長協会のジュニアマイスター制度でのゴールド、シルバーを目標とさせ、生徒の意欲を引き出している。本年度は、1年生に丙種危険物取扱者の資格取得を奨励し、地域の外部人材（元消防署員）を活用した夏期講習会と9、10月に放課後講習を実施している。また、2、3年生の希望者には本校職員による乙種4類の講習会を実施している。

(4) 地域連携

地域連携では、生徒が小中学校の出前授業等で講師をつとめ、工業の専門分野について教えることで、工業高校の魅力を発信するとともに自ら専門分野の知識を深める。7月12日（金）には都市工学科の生徒が近隣の小学校に出向いて、6年生108人を対象に防災出前授業を行った。また、11月には本校の各学科生徒が講師となって、近隣の中学2年生への工作を指導する島工サイエンススクールが予定されており、各学科で準備を進めている。



2 教員の指導力向上

(1) Find! アクティブラーナーの導入

本年度はコアスクールの予算を活用して、Find! アクティブラーナーを導入した。Find! アクティブラーナーは「学び方が変われば未来が変わる」をコンセプトに、アクティブラーナー（能動的学修者）育成に関わるすべての人を対象にした教員のためのweb教材である。アクティブラーニングの授業等2500本以上の動画コンテンツを、パソコンやスマホ、タブレットで視聴できる。全ての教員にアクセスの方法を提供し、視聴を始めた。まだまだ視聴を始めた教員は少ないが、定期的に配信される資料等を紹介し、視聴・研修を奨励するなどして、優れた指導法を共有する機会を積極的に設ける。

(2) 高度技能の習得と先進技術の研究

昨年度は、企業や業界団体が実施した技術研修に工業科教員4人が参加し、延べ6講座を受講した。特に、新学科「情報電子科」では、AI・IoT時代に対応できる技術者の育成を目指すため、関連する研修を重点的に受講した。本年度は、全国工業高等学校長協会主催の研修「ドローンプログラミング体験講座」「Arduinoマイコン活用塾 ～IoT入門編～」を各1名の教員が受講した。これらの研修をとおして先進技術を知ることにより、高度な技術や技能についての学びができる指導法を研究する。

(3) ICT教育の推進

昨年度、各教室にプロジェクターが配置され、本年度は、80台のiPadも整備された。本年度のコアスクール予算を活用してミラキャストも購入し、USBメモリやノートパソコンだけでなく、アンドロイド機器にも対応した環境が整った。タブレットの活用研修やClassiについての勉強会を随時開催するなどして、ICT機器による効果的・効率的な授業展開を研究し、活用を促進する。

< 5 今後の方向性 >

生徒の学力向上のためには、教員の指導力向上は必須であり、ICTを活用した授業やClassiのアンケート機能を利用したフィードバック、校内研修での情報共有等でPDCAサイクルを回し、本校での主体的・対話的な授業づくりを確立させていきたい。また、生徒の学力向上に関する出前講座（地域連携）での探究的活動では、準備段階や実施についてその都度振り返りを実施させることにより定着を図りたい。

<1 テーマ>

主体的、探究的な学びの推進による学力進展
(学びの充実プラン)

<2 取組方法>

- ・外部機関と連携した教材等を開発（作成）し、日常の授業、長期休暇等の課題（宿題）として活用する。
- ・定期的に確認テスト（模試）を実施し、定着度等を確認する。
- ・学び直しが必要な生徒に対し、中学校段階の学び直し（学習支援）を行い、意欲的に学びに向かう姿勢を確立する。
- ・外部人材の活用（出前授業）、大学・企業等と連携した進路探求・職業理解等、多様な機会を提供する。

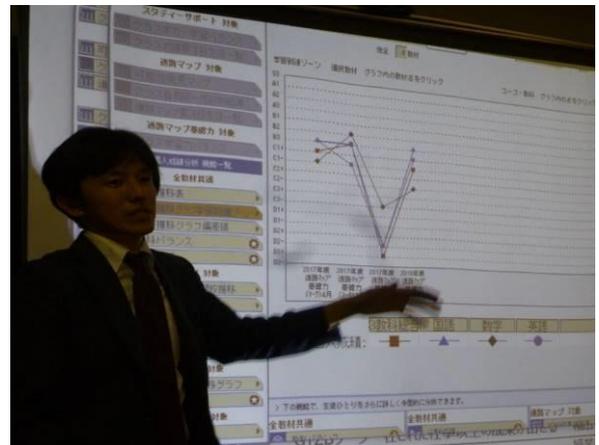
<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組 2年	19.8%	25.0%	21.0% (B)
1年	22.2%	30.0%	30.0% (A)
①平日学習時間 2年	0.34	1.00	0.78 (B)
1年	0.64	1.00	0.79 (B)
①休日学習時間 2年	0.44	1.20	1.10 (B)
1年	0.81	1.20	1.17 (B)
③授業で力が 2年	4.0%	10.0%	12.8% (A)
ついた実感 1年	11.1%	15.0%	8.6% (C)
①授業の理解度 2年	7.9%	10.0%	7.4% (C)
1年	9.1%	10.0%	7.1% (C)
②探究活動への参加生徒数	30	50	76 (A)
②補講等への参加生徒数	30	40	41 (A)
③第一志望の進路実現生徒数	50	60	93 (A)
②資格にチャレンジした生徒数	496(全校)	600	437 (C)
③成長を強く実感した生徒割合	11%(全校)	30%	14% (C)

<4 特徴的な取組>

○ ベネッセと本校職員との研究会の実施

- ① 生徒の主体的な学びを実現する指導方法の検討 ② 生徒の学力の把握(基礎力診断テストの分析)



○ 基礎学力の向上、学び直しを目的とした朝学習の実施、模試による定着度等の確認

- ① 毎週木・金曜日に、生徒のスマートフォンにWEBテストを配信し10分間の朝学習を実施 ② 年間3回、基礎力診断テスト(模試)を実施し、学習内容の定着度、学力等を分析



○ 教材研究委員による先進校(県外)視察

- ① 神奈川県立上鶴間高校視察訪問
(基礎学力の向上に関する意見交換)



○ 島田市と連携した探究的な学びの推進

- ① 島田市職員による講話(出前授業)
(1、2年生を対象に2回実施、市役所へも訪問)



○ 外部人材を活用した進路探求、就職講座の実施

- ① 大学、専門学校、地元企業を招いた進路ガイダンス
(6月は全校生徒、10月、1月は1・2年生対象)



- ② 地元企業等の人事担当者を招いた就職講座
(実践的模擬面接指導(8月 3年生対象))



<5 成果と今後の方向性>

- 主体的な学びによる基礎学力の向上(学習習慣の確立)は、ベネッセと連携した朝学習、週末課題等の実施を行い、学校全体の取組として定着してきた。今後、生徒の定着度、学力向上への効果については、基礎力診断テストの結果(学力推移)を分析しながら検証していく。
- 若手教員を中心とした「教材研究委員会」にて、Classiを活用している先進校(神奈川県立上鶴間高校)を視察し、授業の予習・復習での活用、長期休業中の課題、生徒の学習活動の振り返り(アンケート)等について意見交換を実施し、本校でも試験的に実践している。
- 探究的な学びの推進では、1、2年生が「探究的な学習の時間」を活用し、島田市役所と連携(「島田市総合戦略」を参考に)して、地域の課題や将来性、自分の未来に関するテーマを各自が設定し、調査・研究、まとめ(発表)を行う取り組みを始めた。
- 多様な学習機会の提供については、今後も生徒の興味・関心に応じて、外部人材の活用や外部機関との連携を図っていく。

<1 テーマ>
<p>実社会との接点を重視した 商業教育における 課題解決型プログラムに 基づく学力進展プログラム</p>
<2 取組方法>
<p>○高大接続で不明瞭になっている共通枠ではなく、専門枠（検定・小論）に焦点を絞り、生徒の学習意欲の向上と学力の上昇のために、日商簿記検定を推進し、併せて、大学・専門学校の講師陣の招請や訪問を積極的に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定補講 ・日商簿記検定のWeb講座活用 ・大学進学希望者講義体験 <p>○教職員に対して課題解決型思考力育成教育についての研修ならびに、ALの視点から授業改善実践の視察を通し、意欲とスキルを高める。</p> <p>課題解決型思考力育成教育の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西大学思考ツールを活用した授業改善 ・袋井市幼小中一貫教育 研究授業等の視察 <p>ほか</p> <p>○袋商ショップに連動させた地域創生に資するための探究的な学びを商業デザイン分野で展開し、マーケティング・経営マネジメント等商業の専門性を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋商ショップポスターコンクール

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組	24%	40%	18%
1年	26%	40%	15.8% (C)
①平日学習時間	0.5h	0.75h	0.69h
1年	0.5h	0.75h	0.62h (B)
①休日学習時間	0.75h	1.0h	0.79h
1年	0.75h	1.0h	0.92h (B)
③授業で力がついた実感	2年 5.1%	25%	53.4%
1年	9.7%	25%	61.1% (A)
① 授業の理解度	65%	65%	75.8% (A)
②外部との連携による探究活動への参加生徒数	0人	25人	44人 (A)
②学力向上を目標とした補習等への参加生徒数	80人	100人	69人 (B)
③第一志望の進路を実現した生徒	25人	35人	24人 (B)
③探究活動で社会人基礎力を育成実感度	80%	90%	90.9% (A)
③商業の専門性を伸長への実感度	85%	90%	92% (A)
③ビジネスマナー等を育む信頼度	85%	90%	90.1% (A)
③検定・補習への満足度	80%	90%	80.9% (B)

< 4 特徴的な取組 >

日商簿記検定取得推進

- ① 日商簿記検定補講
専門学校等の教職員を講師として招請
- ② 日商簿記検定のWeb講座活用
部活動等で補講に出られない生徒にも学習チャンスを！



課題解決型思考力育成教育の視察

関西大学黒上教授の思考ツールの活用
・思考ツールの校内研修を実施するとともに、すでに思考ツールを活用している袋井市幼小中一貫教育の視察

プロモーションポスターコンクール

袋商ショップ協力企業のPRポスターを生徒が作成し、コンテスト形式で評価する。

実社会との接続を考慮した課題解決学習、実践的なマーケティングの推進



< 5 成果と今後の方向性 >

本年度は持続可能な教員の指導力向上に向けた授業改善への取組として、関西大学黒上教授の思考ツールについて校内研修を行うとともに、すでに思考ツールを取り入れている袋井市の幼小中教育の実践例を視察することで具体的な授業改善イメージを共有しようと試みている。今後は、公開授業週間を活用し、一人一授業思考ツールを活用した授業を行う取り組みを予定している。11月には名古屋商科大学ALの先進的な取り組みを視察することになっている。

大学進学希望者講義については、事前に専修大学の模擬授業を行ったうえで、大学を訪問した。昨年度はこの講義をきっかけに当該大学を志望し、実際に進路実現した生徒もいる。

また、日商簿記検定の推進に関しても、昨年度の日商簿記補講、Web講座の受講者も今年度も引き続き受講しており、11月の検定試験に向けて取り組んでいる。プロモーションポスターコンクールについても、SNS上での投票などを活用し、実践的なマーケティングを行うとともに、12月の袋商ショップの本番に向けて準備を進めている。

<p><1 テーマ></p> <p>「主体性及び自己有用感の育成が学習態度に与える影響について」～高校から始める非認知的能力の育成について～</p>
<p><2 テーマ設定の理由と取組方法></p> <p>本校では、自ら学習する習慣が身に付いていない生徒が多く、家庭学習時間も少ない。一方、部活動や学校行事のように集団として主体的に取り組むことに対しては積極的に行動できる。そのため、「主体性や達成感、他者との良好な関わり」を様々な場面で育ていくこと、また、学習に主体的に取り組む集団作りが必要であると考えている。</p> <p>カリキュラムマネジメントを意識した学校運営を通して実施する。必要に応じて小委員会や実施委員会を設置するが、原則として既存の組織を活用する。</p>

<3 成果指標と実績>				
成果指標		初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組	2年	22.3%	25%	19.4%
	1年	18.5%	20%	24.9% (B)
①平日学習時間	2年	0.66h	1.0h	0.59h
	1年	0.95h	1.0h	0.83h (C)
①休日学習時間	2年	0.89h	1.5h	0.65h
	1年	1.38h	1.5h	0.87h (C)
③授業で力がついた実感	2年	3.7%	5.0%	3.3%
	1年	4.7%	5.0%	6.5% (B)
①授業内容が理解できる	2年	4.3%	7.0%	4.7%
	1年	6.3%	7.0%	7.1% (B)
②外部連携による探究活動参加数		32人	50人	92人 (A)
②学力向上のための補習参加数		148人	150人	173人 (A)
③第一志望の進路実現数		186人	200人	197人 (B)
①主体的に授業に取り組む		30.1%	32%	33.7% (A)
①先生方は自分のことを認めている		69.5%	70%	72.5% (A)
②土曜サテライン参加数		61人	70人	62人 (C)
③自己分析ができるようになった		—	30%	23.6% (B)

<4 特徴的な取組>

生徒の学力向上

対話力の育成

「対話力の育成により、他者との対話の中で自分の考えを再考し、自己の理解を深める資質・能力が発揮される」を研究主題に掲げ、授業において対話活動を取り入れる場面を設定。また、学習後の振り返り活動を重視し、振り返りに「再構築」を加えたR80を取入れるなど言語活動の充実を図る。

⇒ 思考力・表現力・論理力の向上

「自己管理能力」の向上

各学年・担任の工夫により、手帳やタイムマネジメント表を活用したタイムマネジメントの意識付けを行う。 ⇒ 学習時間増加

「主体性」の向上

生徒の主体的な活動の支援
外部機関が実施する事業や本校独自の事業への希望者の参加

- ・ 県立大学見学会(本校) ・ 「夢ナビライブ」
- ・ 「伊豆ジゴクマスターズ」(本校)
- ・ 英語スピーチコンテスト ・ 川柳コンクール 等

⇒ 達成感を伴った主体性の向上

「自己有用感」の向上

外部機関と連携した活動、協働センター等が実施する事業、ボランティア活動への参加

- ・ 「春野ゼミ」(本校) ・ 保育ボランティア
- ・ 地域の方を招いたテニス教室開催(部活動)

⇒ 外部の大人と接する活動

⇒ 多様な価値観に触れ、視野を広げる



目指す生徒像

自分から 自分らしく

自分の言葉で 語れる生徒



教員の指導力向上

授業改善に向けた校内研修の充実
外部講師を招いて校内研修（兼新学習指導要領
対応研修）を実施

- ・ 8/6、10/23 聖心女子大学 益川弘如 教授
- ・ 10/2 東京大学高大接続研究開発センター
白水始 教授

⇒ 「確かな学力」を育む授業づくり、授業
改善の推進、共通に目指す資質能力



探究活動の充実に向けた研修

総合的な探究の時間の充実のための職員研修会を
実施。また、探究活動委員会を立ち上げ、生徒の
実態に即した探究活動の在り方について研究、実
践を推進 ⇒カリキュラムマネジメント、評価の充実
生徒に論理力を付けることにより、話す発信力が
向上し、客観的批判的思考力が創成され、自分の
考えを持ち、自分を大切にすることができるよう
に探究活動を構成する ⇒「探究力」の向上

高大接続改革への対応

ポートフォリオを活用した学習歴の作成

振り返りの力を育成するために、総合的な探
求の時間に、効果的なポートフォリオの作成
⇒ メタ認知力・思考力・表現力の向上

GTECで求められる学力の指導方法の研究

英語の4技能をバランス良く育成する指導法
及び定期テストの在り方についての研究
⇒ GTECスコアの向上

深い学び、対話的な学び、 主体的な学び の推進

『学び合い』についての研究・実践
上越教育大学西川ゼミとの連携、本校に合った
教材及びクラス作りについての研究・実践
⇒ 教育研究の基礎を培う

1人1研修外部研修に参加
全ての教員が1回は外部の研修に参加、月例の
職員会議後に時間を取って情報共有
⇒ 教員の主体的な授業改革の推進
高大接続改革への対応
全員参加型の学校運営体制

ICT活用の先行事例調査・実践
ICT活用委員会を立ち上げ、先行事例の調査・
研究会への参加・授業実践
⇒ 県事業による整備への対応、活用

その他

修学旅行事前研修の充実

主体的な研修旅行への参加のため、事前研修
を充実させ、修学旅行のしおりがポートフォ
リオとなるような工夫 ⇒ 主体性の向上

生徒会・委員会活動の積極的な取組

生徒会・委員会活動を見直し、生徒が自ら考
え、企画し、実行する場の増加
・生徒会本部によるOB訪問（鎌倉市副市長）
・魅力ある図書館づくり ・台風19号被災者
支援募金 ⇒ 主体性の向上、達成感



<5 成果と今後の方向性>

「対話活動（言語活動の充実）」を学校経営目標に位置付け、各教科において対話による建設的相互
作用を引き起こす場面を設定し、その評価について検討している。また、授業改善推進の取組みとして、
授業改善サポート研修における校内実践の研究授業について、事前研修・研究授業・事後検討会に聖
心女子大学益川弘如教授を、先進講話「深い学びに向けた対話における思考過程の把握」に東京大学高
大接続研究開発センター白水始教授を招聘して職員研修会を実施した。外部の研修会への参加も含め、
教員の中に授業改善に主体的に取り組もうとする機運が醸成されてきた。

生徒の「主体性」「自己有用感」を育成する活動については、生徒会・専門委員会、学校行事、部活
動に加え、希望者を募って行う行事など、多くのものが設定され、積極的に参加する姿勢が現れてきて
いる。これらの取組みを継続することで、方向目標としての成果が現れてくるものと感じている。

<p><1 テーマ></p> <p>地域連携・地域貢献活動による学びの追及と学校の活性化</p>
<p><2 取組方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアスクール推進委員会の設置 (生徒の学力向上) ・地域巡検 ・「はままつフルーツパーク」の一日運営 ・技能検定3級取得のための講習会 ・地域開放講座（寄せ植え講座）の開講 (教員の指導力向上) ・地域人材を活用した講演会 ・「はままつフルーツパーク」のビオトープ管理 ・人権教育に関する講演会 ・特別支援教育の充実 (高大接続改革) ・地元大学の教員による出張授業 ・台湾研修旅行 (成果の検証) ・探究活動等の成果発表会 (その他) ・金指駅のクリーン&イルミネーション活動

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組	2年 20.9%	25.0%	22.7%
1年	23.4%	25.0%	32.6% (B)
①平日学習時間	2年 0.46h	0.5h	0.27h
1年	0.46h	0.5h	0.48h (C)
①休日学習時間	2年 0.46h	0.7h	0.49h
1年	0.61h	0.7h	0.59h (C)
③授業で力がついた実感	2年 6.5%	10.0%	5.3%
1年	6.6%	10.0%	7.0% (C)
①授業の理解度	1年 7.1%	10.0%	6.1%
2年	5.3%	10.0%	9.3% (C)
②探究活動等	1年 117人	200人	239人
参加延べ生徒数	2年 121人	200人	245人 (A)
②補習等への参加生徒数	1年 40人	50人	59人
2年	40人	50人	61人 (A)
③第1志望を実現生徒数	1年	50人	
2年		50人	
①資格試験受験者数	2年	20人	194人
3年		30人	98人 (A)
③成果発表会満足者数	1年	100人	117人
2年		100人	85人 (B)

<4 特徴的な取組>

(1) 天浜線フェスタ

天竜浜名湖鉄道の天竜二俣駅の駅舎内で、5月26日(日)に開催された。平成28年度に開設された湖北MAGIC株式会社との地域連携・貢献の活動の一つである。

右の写真は、ブースの様子とほおずき焼きを作っている光景である。ほおずき焼きの他、綿菓子、湖北グッズ(缶バッジ、ボールペン、クリアファイル、タオルなど)を販売した。生徒12人(1年8人、3年4人)が参加した。



<特徴的な取組>

(2) いなさほおずき市

7月6日(土)、引佐町の竜ヶ岩洞で、2年生4人が試食・販売を行った。農業科の課題研究の中で、食用ほおずきの栽培研究・商品開発を行い、商業科の授業の中で、商品企画の作成・パッケージの作成を行った。本年度から始まったプロジェクトで、菊川市牧之原にある鈴香園に御協力を仰ぎながら進めている。



<特徴的な取組>

(3) 湖北生ジャック



8月22日(木)に、フルーツパーク時之栖をお借りして、湖北生によるフルーツパーク一日運営を行った。昨年度に引き続いての取組で、本年度は1・2年生全員と3年生の希望者の約700人が運営に参加した。来場者数は約1,800人で、例年のこの時期の来場者と比べ3倍以上の集客ができ盛況であった。内容は、グラウンドにおいての「運動イベント」、文化部による「体験イベント」、寄せ植え体験・キーホルダーづくり・くまっぷカフェなど農業科・工業科・商業科が行った「学科イベント」、部活動の「グルメストリート」、ブドウ園・イチジク園での収穫体験補助、レストラン運営などを行った。

<5 成果と今後の方向性>

湖北MAGICの活動として、地域と連携しながら地域貢献を果たす理念のもと、食用ほおずきの商品化、学校オフィシャルグッズの開発、地域イベントにおけるカフェ出店など、授業の中で学んだことを活用する取組として、年々、充実してきている。本年度も現在まで、上記の取組以外に台湾研修の実施(1年5名、2年6名、3年4名の計15名参加)、井の国直虎まつりへの吹奏楽部出演、16回の湖北マジックショップ(カフェ・グッズ販売)を開催している。湖北マジックショップについては、年度内にさらに6回開催する予定である。

その他の今後の活動としては、今年度初めての企画である第1回MIBUフェスティバル、北区わくわく元気プロジェクト「都田朝市」、いなさ人形まつり、農村公園収穫祭、常葉大学浜松キャンパス文化祭、花のリレープロジェクトへの参加を予定している。また、本校が主催する取組として、湖北イルミネーション、金指駅クリーン&イルミネーション、地域関係者から本年度の取組についての意見感想の聴取、次年度の取組を協議する奥浜名湖サミットを開催する予定である。

コアスクール（学力進展） 静岡県立湖西高等学校

令和元年 10 月（平成 30 年 5 月指定）

<1 テーマ>
多様な進路希望を持つ生徒への指導、及び基礎学力の定着をはかる。
<2 取組方法>
本校生徒の進路希望は、大学進学から公務員、一般企業への就職と幅広い。進路意識の高揚のため外部人材の活用を積極的に行っている。また、義務教育段階での既習事項の 学び直しが必要な生徒もいるため、国語・数学の基礎講座も平成30年度より開講した。

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年 1年	25% 27%	30% 30%	28% 32% (A)
①平日学習時間 2年 1年	0.35h 0.43h	0.75h 0.75h	0.33h 0.67h (C)
①休日学習時間 2年 1年	0.29h 0.48h	1h 1h	0.47h 0.65h (C)
③授業で力がついた実感 2年 1年	8% 3%	15% 15%	9% 15% (B)
①授業の理解度	8% 8%	15% 15%	9% 15% (B)
②外部との連携による探究活動 (市議会議員と意見交換)		40人	37人 (A)
③学力向上を目的とする補習授業	40人	50人	45人 (B)
④進路実現者数 (第一志望)	86%	90%	95% (A)
②学び直し講座		20人	6人 (C)
①英語力UP講座	英検対策	右のページの各UP講座参照	43% (C)
②学力UP講座 (2・3年希望者)			40% (C)
③就職力UP講座 (就職希望者)			100% (A)

<4 特徴的な取組>

外部講師を招き、進学希望者向けの**英語力UP講座・数学力UP講座**を開講。進学希望者の実力UP、意識づけを行っている。

平成30年度より、義務教育段階での既習事項の**学び直し講座**を2講座開講。
【国語基礎講座】
【数学基礎講座】



↑国語基礎講座での個別指導

外部指導者を招き、就職希望者向けの**就職力UP講座**を開講。就職試験の心得、マナー、面接指導などを行っている。

<5 成果と今後の方向性>

英語力UP講座・数学力UP講座・就職力UP講座の全ての講座において、講師から「真面目に取り組んでいます」とのコメントをいただいている。どの講座も良好な出席状況である。
 平成30度から開講した学び直し講座**【国語基礎講座】【数学基礎講座】**は受講者がやや少ないが、まじめにコツコツと取り組んでいる。まだまだ義務教育段階での既習事項の復習が必要な生徒はいるので、追加受講も呼びかけている。

講座の様子

英語力UP講座

英会話学校AEONから講師を招き、1・2年生の希望生徒を対象に講座を18回実施する。(1回90分)

【達成目標】受講後、英語検定に挑戦する生徒75%以上を目指す。

【本年度は21人受講】



数学力UP講座

代々木ゼミナールから講師を招き、2年生理系進学コースの生徒を対象に夏休みに集中講座を開講(5回)

【達成目標】受講後、理系学校進学を明確にする生徒75%以上を目指す。

【本年度は12人受講】

就職力UP講座

専門学校(シグマライセンススクール)から講師を招き、就職希望生徒を対象に講座を24回実施する。(1回90分)

【達成目標】就職に向けて明確な目標をもった生徒75%以上を目指す。

【本年度は10人受講】



★ 昨年度よりスタートした中学校既習事項の学び直し講座です！

国語基礎講座

&

数学基礎講座



【本年度は、国語基礎講座3人受講 数学基礎講座は9人受講】

外部講師による、UP講座・基礎講座ともに生徒からも好評を得ています